

## ● 法名と戒名の違い

ところで、「ほかの宗派では『戒名』と言っておられるのに、なぜ浄土真宗だけが、わざわざ『法名』という言い方をしているのですか？」というご質問をよく受けます。これまで述べてきたように浄土真宗では「法名」と言います。「戒名」は「戒律を守って、自力で功德を積んで、さとりを開こうとする者に与えられる名」ですが、「法名」は「阿弥陀仏の教えにであって、お念仏一つで救われていくことを喜ぶものにあたえられるもの」であるということです。

また、戒名の「戒」は「戒律」の意味  
まつだい ぼん ぶ  
です。末代の凡夫である私たちは、戒律を守ることなど、とてもできません。日常生活の食事一つをとっていても生き物の命をとる身です。また、「害虫」といって殺虫剤で虫を殺しています。さらによくよく省みると、自分に都合の悪い人を心の中で何人殺したことでしょ。

「生き物を殺さない」という「不殺生戒」一つも守れない身であります。そんな私を「おまえを放っておけない」と立ち上がってくださった阿弥陀如来のご恩に、お念仏申すばかりです。

意外と思われるかも知れませんが、実は、「戒名」という呼称は、「法名」が生まれた中国でも、古い文献には出てこないと言われます。つまり「法名」の方が古い呼称であって、ある時期以降、受戒の意義を鮮明にするために、新しく「戒名」と称するようになったと考えられており、浄土真宗の「法名」という呼称の方が、古い伝統を継承しているわけです。

## ● 帰敬式の受式を



「法名は死んでからの名前」ではありません。今日、ただいまの私たちが、いのちの底から阿弥陀如来のお慈悲に支えられていることに気づかせていただくのです。

どうか進んで帰敬式を受式していただきたいと願いたします。

「本願寺新報」3月1日号掲載記事  
本願寺派総合研究所  
教学伝道研究室長  
満井秀城師



## ■ 「帰敬式」が受けられるお寺

### 【 築地本願寺 】 .....

- <受式日程>  
5月21日 降誕会  
7月15日 宗祖月忌速夜法要引き続き  
9月16日 宗祖月忌日中法要引き続き  
● 11月11日～16日 報恩講法要  
● 12月なし



<冥加金>  
[成人]1万5千円 [未成年]1万円  
(築地本願寺への懇志5千円含)

<問合せ先> 03-3541-1131  
〒104-8435  
東京都中央区築地3-15-1

### 【 本願寺 】(京都) .....

- <受式日程>  
毎日2回  
(午前)晨朝に引き続き  
(午後)午後1時30分  
※本山恒例法要日は午後1時  
(1月1日、1月16日の晨朝後、1月8日、  
12月20日は終日なし)



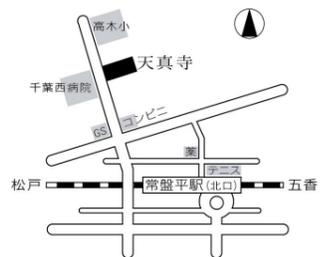
<冥加金>  
[成人]1万円 [未成年]5千円  
<問合せ先> 075-371-5181  
〒600-8501  
京都市下京区堀川通花屋町下ル



## 浄土真宗 本願寺派 天真寺

〒270-2251  
千葉県松戸市金ヶ作106番地  
TEL 047-389-0808  
FAX 047-389-0809

[www.tenshin.or.jp](http://www.tenshin.or.jp)



## 「帰敬式」申込書 (天真寺用)

平成 年 月 日

[氏名]

[住所]

[電話]

[場所] 築地本願寺 ・ 本願寺(京都) [日時] 平成 年 月 日

普通法名 ・ 内願法名 (希望するほうに○印をつけて下さい)

大町やすらぎパーク内  
納骨懇志20万円

松戸やすらぎ堂

やすらぎの  
永代合葬墓

永代合葬 20万円  
合葬と分葬(大) 50万円  
合葬と分葬(小) 30万円  
その他の管理料 0円

大町やすらぎ堂  
納骨懇志20万円

京都 永代合葬墓  
あんのん堂

京都・大谷本廟内  
納骨懇志5万円

# 帰敬式

発行日 2013(平成25)年11月1日  
発行者 浄土真宗本願寺派天真寺



## 「帰敬式」を受けましょう

### ● 帰敬式とは…

ききょうしき  
「帰敬式」とは、阿弥陀如来、そして親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚を新たにし、お念仏申す生活を送ることを誓う、私たちにとって最も大切な儀式です。式ではご門主様(または代行者)の導きで「三帰依文」を称え、三宝(仏・法・僧)を心のよりどころとし、敬うことを誓います。仏弟子となるため、親鸞聖人の得度式にならっておかみそりを受けます。帰敬式を受式し仏弟子となった証に、ご門主様より法名が授与されます。浄土真宗の法名は釋〇〇の二文字です。

天真寺門徒の皆様には、ぜひ帰敬式を受式下さい。法名をいただき仏弟子としての自覚を新たにし、ともにお念仏申す仲間としてご聴聞にはげみましょう。帰敬式は大変厳粛な儀式で、一生に一度のご縁です。



合掌

### 帰敬式

### ● 仏弟子となる証



私たち一人一人には名前があります。一人一人に名前があるということは、その人が持つ、固有の人格を表すものといえるでしょう。広い世の中には、もちろん同姓同名も少なくありませんが、その人個人が、他の人とは異なるというアイデンティティーの役割を持っています。

「姓」は、家族・親族というつながりを示し、「名」には、その子に向けられた親の願いが込められています。誕生と同時に、名前という形で私という独立した個人が保障されるとともに、名前は家族という仲間とのつながりや、親の願いとして込められた慈愛を体現しています。

浄土真宗には、「法名」という、帰敬式を受けて授与される名前があります。

「仏弟子」となった証として本願寺のご住職(ご門主)から名づけられる名前です。いわゆる「俗名」には自分の意思は入りませんが、「法名」は浄土真宗の教えを聞いて生きていく、本人の意思に基づいていただくものです。阿弥陀如来の教えを価値の中心に置く身となったことの表明であり、「仏弟子の名のり」なのです。そして、浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、お念仏申す日暮らしを送ることを誓うことです。

### ● 法名につく「釋」の字

浄土真宗の法名は「釋〇〇」といただけます。「釋」の字を冠するのは、釋尊の弟子となることを表しています。「釋〇〇」と、「釋」の字を冠して2字の法名であるのは、4世紀頃、中国の道安という人によって考案された伝統を受け継いでいます。

しょうぎょう  
本願寺でいただく法名はすべてお聖教のお言葉が用いられています(※内願法名もあります)。自分の名前に仏語(お経の言葉)をいただくということは、その仏語に見合った生き方を送ることの表明であります。

釈尊がこの世にお生まれになって最もお説きになりたかったのは阿弥陀如来のお念仏の教えであると、私たちは聞かせていただいています。お念仏を中心とした生き方をする身にならせていただいたことを高らかに宣言する名のりこそが、「法名」をいただくことです。親鸞聖人は、お念仏を申す者を「真の仏弟子」だとほめ讃えられておられます。なぜ「真の仏弟子」と言えるのかを、「他力金剛の信心を得た念仏の行者のことである。この他力えこう回向の信と行によって、必ずこの上ないさとりを開くことができるから」と述べられています。



ないがんほうみょう  
※「内願法名」とは…

帰敬式では法名を授与されますが、通常はご門主から頂戴し、選ぶことはできません。ただし名前の一文字を入れたいなどの希望がある場合は、「内願法名」を申込むことができます。受式者の希望を聞き事前に天真寺住職が法名をつけ、その法名を帰敬式で頂戴します。通常は当日申込みが可能です。内願は2カ月前に申込み、冥加金は別途1万円が必要となります。いずれも、お寺にお気軽にご相談下さい。